

個別最適化学習（学習支援オンライン教材）

メキシコ・グアナファト日本人学校

I 前提

学校環境

在籍児童生徒・教職員数 中学部5名、小学部50名 計55名、教職員約15名

2019年4月に開校したばかりの学校でICT環境整備が十分に行き届いていない。そのような状況の中、コロナの感染拡大により2020年度4月より学校閉鎖、在宅勤務を余儀なくされた。

児童生徒の家庭では兄弟で学校に通っている家庭などを中心にパソコンが足りない状況があり、それぞれの家庭に学校から貸与した。また、Zoomによるオンライン授業を行ったが、日本に一時避難のため帰国している児童生徒へは時差の関係で対応できない状況もあった。

また、教職員では「教職員がデータを共有するサーバーがない」、「無料版のZoomでは時間が足りない」、「学校のWi-Fiが脆弱」、「オンライン授業だけでは学習機会が不十分」など課題が出された。それら解決させなければいけない課題を一つ一つクリアしていくためにICT環境の整備を行い、授業実践を積み重ねていった。

課題と目標

<課題>

児童生徒は、学校の授業や家庭学習（宿題）以外に学習する機会が少ない。さらに、コロナ禍でオンライン授業となり、授業時間が減少し、一時帰国の児童生徒が多数でるなど、児童生徒の学力保障の手当が急務となった。

<目標>

在宅で児童生徒が個別に学習することができる「すらら」を導入し、授業で学習した内容を「すらら」を用いて復習する。また、一時帰国している児童生徒は、時差の関係でオンライン授業を受けることは難しいが、「すらら」を利用することで現地の児童生徒と共に同じ学習をすることができ、本校の教師が日本にいる児童生徒の学習状況や習熟度を把握することも可能にする。

2 実践の内容

活用したICTツール

» PC（タブレットも可）

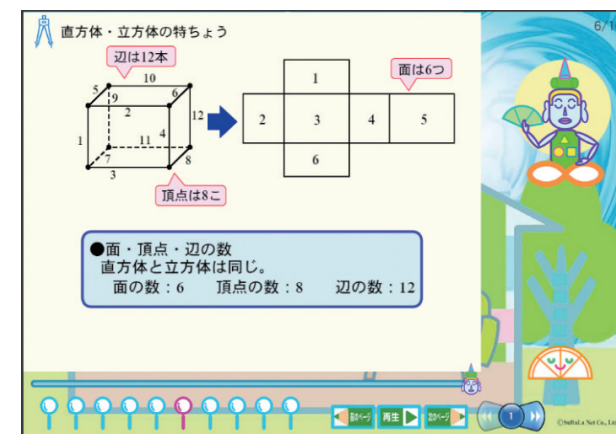
» 無学年式オンライン教材「すらら」

アニメーションキャラクターが、語りかけながらわかりやすく説明するレクチャー、さらに、自動でつまずきが診断されて克服できるプログラムを搭載したドリルなど、楽しく学習習慣を身につけながら成績向上を目指せる仕組み。2012年度e-ラーニング大賞文部科学大臣賞を受賞。

具体的な活用方法

- ① 児童生徒が「すらら」にログインし操作方法を学びながら、自分自身で学びたい教科や学年を自由に選んで、自主学習する期間を設ける。
- ② 自主学習期間中に、「すらら」活用のための教員研修を行い、学校が主体となって「すらら」を使い、オンライン授業と「すらら」を併用して、児童生徒の学習機会の確保、学力保障を目指す。
- ③ 教科によっては、オンライン授業の中に「すらら」を使った学習を取り入れたり、日々のオンライン授業の復習として「すらら」での学習を宿題として課す。
- ④ 季節休業中の宿題として「すらら」での学習を設定し、児童生徒の学習状況や学習理解度を把握しながら、日々のオンライン授業の指導内容や指導方法に生かした。

※ 教師側の管理画面からいつでも学習状況、苦手単元や問題などを把握、分析することができる。また、児童生徒からわからない問題などの質問を教師側に送ることができ、それに対する対応を含め、教師側から児童生徒へメッセージを送ることは可能。



3 成果

学習効果等

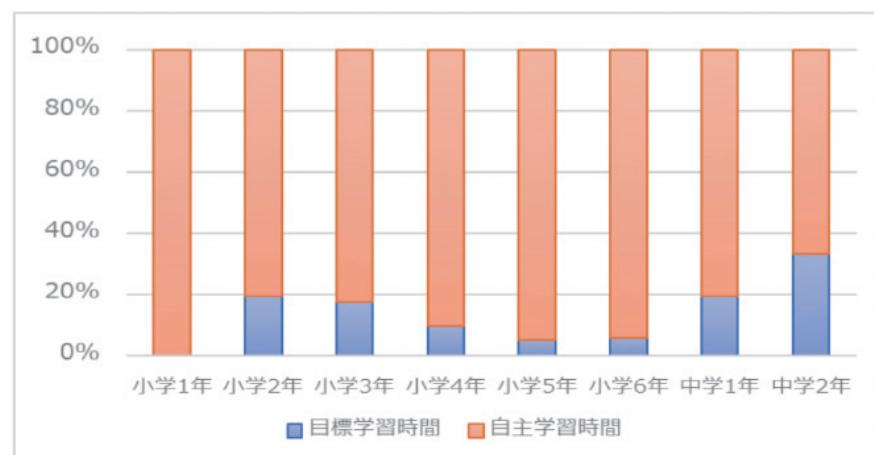
約7割の児童生徒が、オンライン授業と「すらら」で学力保障が十分にできたと回答している。「すらら」導入当初のねらいの一つとして、「すらら」の導入によって学習機会の充実と学力保障を目指すことを挙げていたが、それが概ね達成できた。また、「すらら」で学習していく中で、児童生徒一人ひとりが自分に合った学習方法を見つけ、意欲的に学習に取り組んでいることが分かった。

オンライン授業が継続する場合でも、学校が再開した場合でも、学校が主体となって「すらら」を活用した学習機会の充実と学力保障、さらに個に応じた指導の向上を目指していく。

目標/自主学習時間の割合



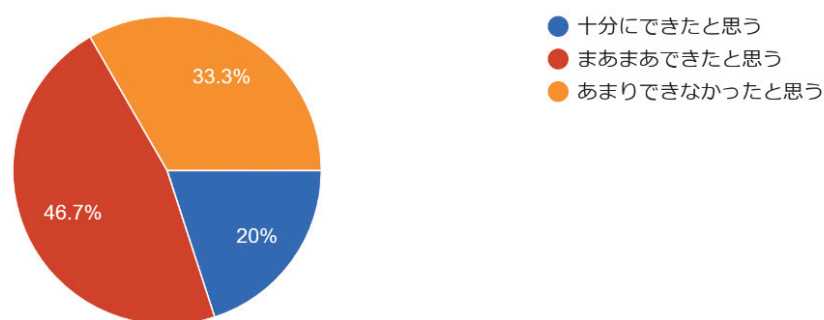
全学年ともに、自主学習時間の割合が高くなっています。



10

Zoom授業と「すらら」で、学力保障が十分にできたと思いますか。

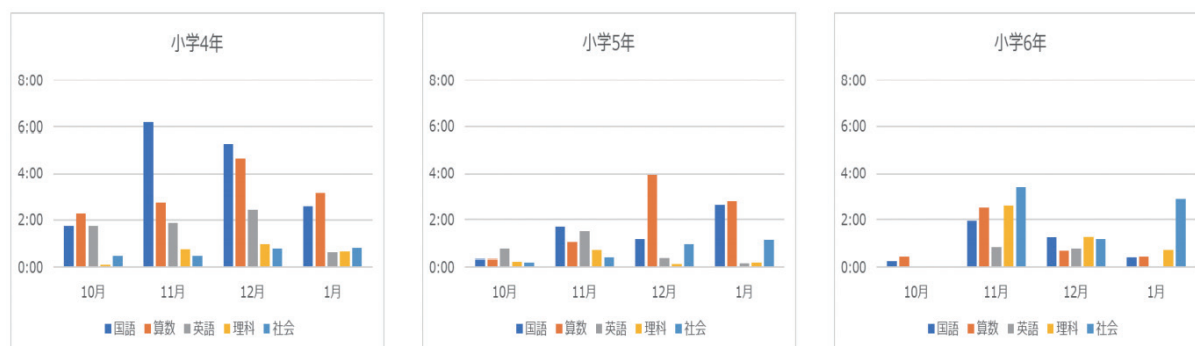
30 件の回答



平均学習時間（学年・科目ごと）



小学4・5年生は、国語・算数を中心に継続して学習を進めることができます。
小学6年生は、国語・算数に加えて、理科・社会の学習も進められています。

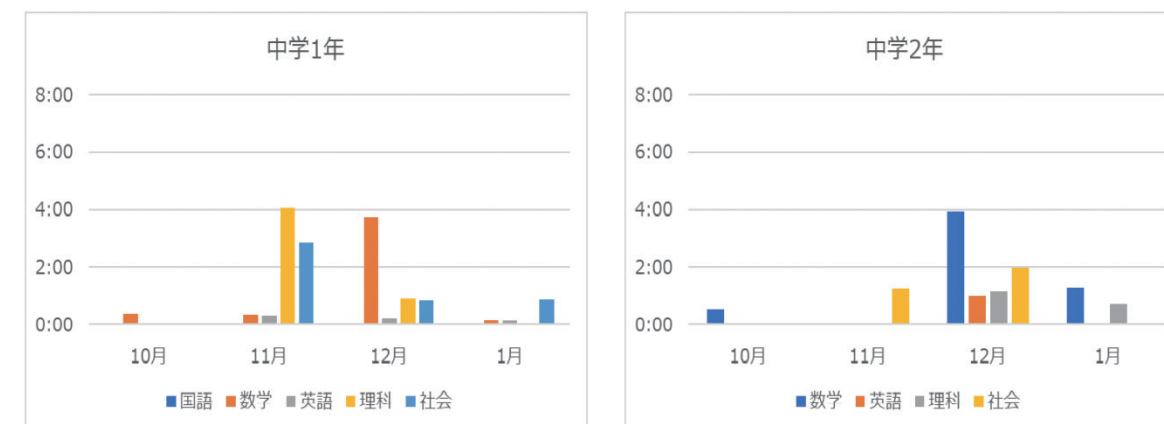


6

平均学習時間（学年・科目ごと）



中学1・2年生は、月によって偏りがありますが、各科目それぞれ学習を進められています。



7

児童生徒、教師、保護者の反応

<児童生徒・保護者>

- » 学年関係なく、興味のある教科を学べる。
- » 宿題勉強というよりゲーム学習のような感覚で学んでいたと思います。
- » 自分で、勉強できる。
- » ポイント制度など楽しんで学習ができた。
- » ドリルやプリントを利用した宿題よりも集中して説明を聞いて、できていた様に思う。
- » 他学年の内容であっても、抵抗なく予習ができる。
→「すらら」は無学年制なので関連する単元をまとめてどんどん前に進めることもできれば学年の単元ごとに復習を繰り返し行うことも可能
- » 児童生徒の学習意欲を向上させることができる。
- » 宿題の場所が分かりやすかった。
- » 間違えた問題は何度も復習ができる。
- » 説明付きでよかった。
- » ポイントを稼ぐことで、面白い特典がある。
- » たまに教科書に載っていないような深い学習ができることもある。